

国語科学習指導案

福山市立久松台小学校 井上博貴

- 1 日 時 2012年(平成24年)10月31日(水) 第5校時(14:00~14:45)
- 2 学年・組 第3学年1組(33名)
- 3 単元名 ② せつめいのしかたを考えよう(読む) 「すがたをかえる大豆」
れいをあげてせつめいしよう(書く) 「食べ物のひみつを教えます」

4 単元について

- 本単元は、第3学年及び第4学年「C 読むこと」の指導事項の

イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと

と、「B 書くこと」の指導事項の

ウ 書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くこと

とを関連付けることにより、効果的な指導を行うことを意図したものである。

その際、「B 書くこと」の言語活動例

イ 疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書いたり、学級新聞などに表したりすること

を設定し、「読むこと」の学習過程が、児童自身にとって「書くこと」の課題解決の過程となるように位置付けている。

調査報告文を書くという目的を明確にもつことで、その目的に応じた「中心となる語や文」を主体的にとらえて読むことができる。また、教材文を始めとした、食べ物に関する文章や資料などを読むことの過程が、調査報告文に書きたいことを明らかにしたり、図書資料から材料を集めたりする学習となり、「書こうとすることの中心を明確に」することにつながっていく。このように「読むこと」と「書くこと」を組み合わせることにより、それぞれのねらいを一層効果的に実現するよう領域を複合させた単元である。

- 本単元の学習を進めるにあたり、「平成24年度 全国学力・学習状況調査」の結果をもとに本校全体の「書くこと」の課題を明らかにするとともに、プレテストを行い、本学級の児童の実態を把握していった。

◆平成24年度 全国学力・学習状況調査 国語A 7

①から④までを、一文にまとめて書きましょう。
書き出しの言葉(七月一日に、合唱コンクールの県大会に出場した本校合唱部が…)に続く内容を、二十字以上、三十字以内で書きましょう。

- ① 合唱コンクールの県大会が、七月一日に開かれた。
② そのコンクールに、第三小の合唱部が出場した。
③ 第三小の合唱部は、そのコンクールで金賞に選ばれた。
④ 第三小の合唱部は、来月開かれる全国大会に出場することになった。

【出題の趣旨】

目的や必要に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことができるかどうかをみる。

【学習指導要領における領域・内容】

- B 書くこと(第5・6学年)
ウ 事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること

【学習指導要領の言語活動例との関連】

- B 書くこと(第3・4学年)イ

解答類型		正答
1	次の条件を満たしているもの (1) ③と④に書かれている内容をまとめている。(2) 書き出しの言葉に続けて、一文で書いている。(3) 20字以上, 30字以内で書いている。	◎
2	条件(1)(2)は満たしているが, 条件(3)は満たしていないもの	
3	条件(1)は満たしているが, 条件(2)は満たしていないもの	
9	上記以外の解答	
0	無解答	

	正答率(%)
全国	43.7
広島県	49.4
本校	41.5

解答類型	1◎	2	3	9	無解答
本校の割合(%)	41.5	3.1	29.2	16.9	9.2

誤答では、解答類型3が29.2%あり、③④をそれぞれ文にして、二文で書いている児童が多い。また、解答類型9(16.9%)では、必要となる事柄を文の中に入れていない児童が多い。これらのことから、共通の主語を持った文を分かりやすく一文にすることや、調査したことから必要な事柄を捉えて書くことに課題があることが分かる。

◆プレテスト

たろうさんは、福山市で作られているくだものについて調べ、調べたことをほうこくする文章を書くことにしました。イの「 」の中に入れる文章を、アの書き方のように、次の【注意】にしたがって書きましょう。

【注意】○二つの文で書きましょう。 ○50字から80字の間で書きましょう。

【調べたことア】

- ・ももが、かなべで作られている。
- ・ももは、七月にしゅうかくされる。
- ・かなべのももは、大きくてあまいので、とても人気がある。

【調べたことイ】

- ・ぶどうが、ぬまくまで作られている。
- ・ぶどうは、日あたりのよい山のしゃ面を使って作られている。
- ・ぶどうは、六月から十月の間にしゅうかくされる。

福山市では、いろいろくだものが作られています。

一つ目は、かなべで作られているももです。ももは、七月にしゅうかくされ、大きくてあまいので、とても人気があります。

上記のプレテストを行い、次の4観点で分析をした。観点と結果は、以下の通りである。

	分析の観点	人数	通過率
①	「一つ目は」に続く言葉(二つ目は・次に 等)を段落のはじめに書いている。	28人	84.8%
②	一文目で、「・・・ぶどうです。」という説明をしている。	25人	75.8%
③	二文目は、【調べたことイ】の二つ目、三つ目について、「ぶどう」を主語に一文で書いている。	17人	51.5%
④	文末を敬体で統一している。	25人	75.8%

①については、算数科等での説明の仕方でも活用してきているので、28人(84.8%)の児童が、「一つ目に」に続いて、「二つ目に」という接続語を使って書き始めていた。本単元では、「まず」「次に」「さらに」という接続語と比較させることで、場合によって使い分けられるようにさせる必要があると考える。

②については、アの書き方に合わせて、「・・・ぶどうです。」という一文を書けた児童は25人(75.8%)

であった。

③について、誤答を分析すると、以下の通りである。

メモの内容をそれぞれ一文で書き、全部で三文になっている	10人	30.3%
メモの内容の一方だけを取り上げて書いている	3人	9.1%
一文にしているが、「ぶどうは、・・・ぶどうは、・・・」と主語を二回書いている	2人	6.1%
主語は一つだがメモの情報が不十分である	1人	3.0%

全国学力・学習状況調査結果と同様に、主語に着目して、複数の文を一文にする力に課題があることが分かる。1学期の単元「ほうこくする文章を書こう」でも、調査した内容をそのまま羅列して記述しようとする児童が多かった。また、④では、メモの文をもとに敬体で文章を書くことが難しい児童も8人(24.2%)いることが分かる。主語の同じ複数の文を一文にする方法を指導したり、いくつかのメモをまとまりのある文章として記述させたりする練習が必要である。

○ 指導に当たっては、以下のように行う。

【中心となる語や文を捉えて読む力を付けるために】

- ・ 単元の導入で、「はじめ・中・おわり」の構成を意識した「飛び出すほうこく文」を書いて、多くの人に読んでもらうことを確認することで、相手意識・目的意識を明確に持たせ、どのように書いたらいいかを見つけながら教材文を読んでいけるようにする。
- ・ 単元の初めに、自分が報告文に書きたい食材を決めさせ、『すがたをかえる大豆』の学習と並行して関連図書を読んだり、必要な情報をカードに書き出したりさせていくことで、報告文に書きたいことを想定し、書きぶりを見つけるという目的意識を高めながら教材文を読めるようにする。
- ・ 教材文の「はじめ」と「終わり」から、「おいしく食べるくふう」について説明していることを見つけさせた後、「中」の部分の関係を読み取らせていき、「中心文—具体例」という関係に気付けるようにする。
- ・ 「一番分かりやすいのは」「次に」「また」「さらに」「これらのほかに」という各段落の書き出しの言葉や接続語から、段落の並べ方に着目させ、筆者の意図に気付けるようにする。

【書こうとする中心を明確にして書く力を付けるために】

- ・ 「飛び出すほうこく文」の例を見せることで、食材が①どことなくふうにより②どんな食品にすがたをかえているのかについて調べ、調査報告文を書くという目的を明確にし、「食品—くふう（作り方）」という関係で、必要な情報をカードにまとめていけるようにする。
- ・ カードには情報を箇条書きで書くようにさせ、プレテストの答えあわせを通して、共通の主語を持つ複数の文を一文にする方法や、メモの内容をつなげてまとまりのある文章にする方法を全体で確認して、自分の文章に生かせるようにする。
- ・ 教科書の例文から、「食品—くふう（作り方）」という関係を押さえ、各段落の最初の一文を「●●です。」という言い切りの文にする指導をしていく。
- ・ 教材文や教科書の例文の接続語と、筆者の意図を確認し、「食材の形が残っている食品」⇒「形が分かりにくくなる食品」という順序で段落の並べ方を工夫させる。
- ・ プレテストの答え合わせとともに、久松台タイムや家庭学習等で、調査メモをまとまりのある文章にする練習を継続して行い、自分の文章を書く際に生かせるようにする。

5 単元の目標

- 疑問や課題を明確にしながら調べようとしたり、調べて分かったことを報告する文章に書き表したいという思いをふくらませて書こうとしたりする。 〈関・意・態〉
- 自分の解決すべき課題に応じて中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら読むことができる。 〈読むこと イ〉
- 調査の結果とそこから考えたことなどが明確に伝わるように、事例を挙げて調査報告文を書くことができる。 〈書くこと ウ〉
- 文や段落相互の関係を示す手がかりとしての接続語の役割を理解することができる。 〈伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項(1)イ(ウ)〉

6 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能
書イ 「疑問に思ったことを調べて、報告する文章を書く言語活動」を通じた指導			
・疑問に思ったことの中から興味をもったことを選んだり、調べていく課程で文章に書き表したいという思いを膨らませたりしながら書こうとしている。	・調査の結果とそこから考えたことなどが明確に伝わるように、事例を挙げて調査報告文を書いている。	・自分の解決すべき課題に応じて、中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えて読んでいる。	・接続語は文相互の関係、段落相互の関係を端的に示す手掛かりとなることを理解し、文脈に沿って使っている。

7 単元の指導計画 (全 14 時間)

次	時	学習内容	指導上の留意点	評価規準 【評価方法】
一	1	○身の回りの食べ物を振り返ったり、食べ物について書かれた本を読んだりして、身近な食べ物の秘密について発表し合う。 ○「とびだすほうこく文」の例から、調査報告文を書くという目的を持つ。	○「飛び出すほうこく文」の例を作成しておき、児童に見せることにより、調査報告文を書くことへの興味・関心を高める。	<u>〈関・意・態〉</u> ○興味をもったことを調べて調査報告文に書くための見通しを立てようとしている。 【発言・観察・ワークシート】
	2	○食材からできる食品と、その食品を作るくふうについて調査カードにまとめていくことを知り、調べたい食材を決める。 ○学習の進め方や調査結果のまとめ方などについて話し合い、学習計画を立てる。	○「食材からできる食品」－「作るくふう」と2段にまとめていく、調査カードを提示する。 ○教材文を読みすすめながら、自分の調査報告文に生かせる筆者の書き方の工夫を見つけることを確認する。	
	3	○学級文庫や図書室などから、自分が調べたい食材についての図書資料を探す。	○自分で図書資料を選べない児童には、「食品と工夫」を調べることを確かめながら一緒に探し、調査の見通しを持たせる。 ○4～8時の各時間の、終末の10分間を並行読書による情報収集の時間にあてる。	
二	4	○既習の説明文の学習を想起し、「はじめ—中—終わり」の構成を確認する。 ○教材文の「はじめ」と「終わり」を読み、筆者が「中」の部分で、どんなことを述べているか分かる文を見つける。	○「はじめ」と「終わり」を最初に読むことで、筆者が伝えたいことを確かめるとともに、「このように」という語に着目させ、「中」の部分にどんな内容が書いてあるか考えさせる。	<u>〈読む能力イ〉</u> ○教材文を読んで、初めて知ったことやもっと調べてみたいことを挙げたり、「食べ物の加工の仕方」と「その事例となる食品の説明」など、段落の相互関係を明確にする述べ方に気付いたりしている。 【発言・ワークシート】
	5 6 7	○自分の調査報告文に生かしたい構成や記述の仕方をまとめながら教材文を読む。 ○「中」の部分から、「中心文—具体例」などの段落相互の関係を見つける。 ○「次に」「また」「さらに」という接続語が使われていることから、例を挙げる順番について考える。	○中心文が見つけられない児童には、「加工の仕方」に関わる文や言葉に赤線、事例となる食品には青線を引かせるなど、叙述を視覚化して示す。 ○「一番分かりやすいのは」という3段落の書き出しに着目させ、食材の形が残っている物から形が変わっているものの順で並べていることに気付かせる。 ○「これらのほかに」からは、作り方の工夫ではなく、取り入れる時期や育て方の工夫であることをおさえる。	
	8	○教材文から、自分の表現に生かしたい書きぶりの工夫をまとめ、交流する。	○学習を振り返り、「報告文の書き方の工夫」をまとめる。 ○「中心文—具体例」というつながりや、段落の並べ方と接続語については、必ず調査報告文に生かして書くことを確かめる。	

三	9	○取材で書きためたカードを分類・整理する。	○自分が書きたいことに応じた情報が収集できているか、内容と分量の両面から見直すようにする。	<p>〈書く能力ウ〉</p> <p>○収集した情報を、「食品」と「加工の仕方の工夫」に整理し、自分の書きたいことを中心を決めて、両方の関係が分かるように調査報告文に記述している。</p> <p>【調査報告文】</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能(1)(ウ)〉</p> <p>○文相互及び段落相互の関係を表すための接続語の役割を理解し、自分の文章に用いている。</p> <p>【調査報告文】</p> <p>〈関・意・態〉</p> <p>○記述に即した絵も取り入れながら、丁寧に作品を作ろうとしている。</p> <p>【作品 (飛び出すほうこく文)】</p>
	10	○教科書の例文から、「はじめ—中—終わり」の構成と、「中」の部分の「食品—作り方(工夫)」の関係を考える。 ○書きたい中心を明確に、「はじめ」の部分を書く。	○自分の調査報告文の中心に応じた「はじめ」を書かせる。 ○既習の「イルカのねむり方」「ありの行列」から、「はじめ」の部分に問題提起の文を書く工夫を想起させる。	
	11 (本時)	○箇条書きのメモをまとまりのある文章にする学習を想起する。 ○「中」の部分の順序を決める。 ○調査カードをもとに、「中」の部分を書く。	○プレテストの答え合わせ等で、主語に着目して一文にすることや、メモをつなげてまとまりのある文章にする学習をしておき、本時のはじめに想起させることで、自分の調査内容を、分かりやすく文章にすることを意識させる。 ○「まず」「次に」「さらに」の接続語とともに、段落の並べ方の工夫を掲示しておき、それをもとに、自分が書く調査報告文の段落の順序を考えさせる。 ○なかなか書き始められない児童には、「まず□□です」「次に△△です」という文を各段落の最初に書くように促す。 ○カードに記述している文と文をつなぐ言葉を掲示しておき、自由に見にいて、参考にできるようにする。	
	12	○「このように」を使って「終わり」の部分を書く。 ○友だちと調査報告文を読み合っ、相互評価し、必要な箇所を書き直す。	○前時までには確かめてきたことを視点として、具体的に相互評価できるようにする。	
	13 14	○「飛び出すほうこく文」を作る。	○事例の挙げ方など、自分の記述のよさを確かめながら清書させる。 ○食品のイラスト例を用意しておき、活用できるようにしておく。 ○書いたものを形に残すことで、書くことのよさを味わったり、次単元の導入の際、活用したりできるようにする。 ○作品を、互いに読み合ったり、学校の他の先生や保護者に見てもらったりして、感想をもらうことを確認する。	

8 本時の目標(第11時)

- 「中」の段落の順序を決め、接続語を用いながら「中心文—具体例」というつながりで、調査報告文を書くことができる。【書ウ】
- 文相互及び段落相互の関係を表すための接続語の役割を理解し、自分の文章に用いることができる。【伝国(1)イ(ウ)】

9 準備物

指導者：メモの文をつなぐ言葉の掲示 既習事項の掲示 「報告文の書き方の工夫」チェック表
児童：ワークシート(調査報告文下書き用紙)

10 本時の展開

時間	学習活動と内容	指導上の留意点	評価規準【評価方法】
2分	1 本時の学習課題を確認する。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 段落のならべ方を考えて、食品と作り方の関係が分かる報告文を書こう。 </div>		

5分	<p>2 既習事項の復習をする。</p> <p>○ 箇条書きのメモを元に、まとまりのある文章にする学習を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主語をはっきりさせて、同じ主語で文をまとめることができた。 メモの文と文をつなげるときには、つなぐ言葉を考えて書くとよかった。 	<p>(発)「調べたメモを分かりやすく文章に書くときに、どんな工夫をしたらよかったですか。」</p> <p>○メモをそのまま書くのではなく、一文にまとめたり、接続語を工夫したりして、記述することを想起させ、簡単な文例で確認する。</p> <p>○文と文をつなぐ接続語については、教室にヒントとして掲示しておき、文章を書くときに自由に見に行き参考にしてよいことを伝える。</p>					
5分	<p>3 「中」の部分の記述の工夫を確認する。</p> <p>○ 前時までの学習を想起し、調査報告文の記述の仕方を掲示物で確認する。</p>	<p>(発)「文章の書き方の工夫を確認しましょう。」</p>					
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">終わり</p> <p>□ 「このように」という言葉で、書きたいことの全体をまとめる。</p> </td> <td style="width: 50%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">中</p> <p>□ 一つの食品で、一つの段落を作る。</p> <p>□ 段落の並べ方を考えて、「まず」「次に」「さらに」という接続語で、段落をつなげる。</p> <p>□ 段落のはじめに、書きたいことの中心を一文で書く。</p> <p>※ 「まず、●です。」「次に△です。」「メモの文を、一文にしたり、接続語でつなげたりして、分かりやすい文章で書く。」</p> <p>□ 文の終わりは、ていねいな言葉で書く。</p> </td> <td style="width: 25%; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">はじめ</p> <p>□ 食材について説明する。</p> <p>□ 書きたいことの中心をおおまかに説明する。</p> <p>□ 問いかけの文を書いてよい。</p> </td> <td style="width: 20%; padding: 5px; vertical-align: middle;"> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">両方の書き方の工夫</p> </td> </tr> </table>				<p style="text-align: center;">終わり</p> <p>□ 「このように」という言葉で、書きたいことの全体をまとめる。</p>	<p style="text-align: center;">中</p> <p>□ 一つの食品で、一つの段落を作る。</p> <p>□ 段落の並べ方を考えて、「まず」「次に」「さらに」という接続語で、段落をつなげる。</p> <p>□ 段落のはじめに、書きたいことの中心を一文で書く。</p> <p>※ 「まず、●です。」「次に△です。」「メモの文を、一文にしたり、接続語でつなげたりして、分かりやすい文章で書く。」</p> <p>□ 文の終わりは、ていねいな言葉で書く。</p>	<p style="text-align: center;">はじめ</p> <p>□ 食材について説明する。</p> <p>□ 書きたいことの中心をおおまかに説明する。</p> <p>□ 問いかけの文を書いてよい。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">両方の書き方の工夫</p>
<p style="text-align: center;">終わり</p> <p>□ 「このように」という言葉で、書きたいことの全体をまとめる。</p>	<p style="text-align: center;">中</p> <p>□ 一つの食品で、一つの段落を作る。</p> <p>□ 段落の並べ方を考えて、「まず」「次に」「さらに」という接続語で、段落をつなげる。</p> <p>□ 段落のはじめに、書きたいことの中心を一文で書く。</p> <p>※ 「まず、●です。」「次に△です。」「メモの文を、一文にしたり、接続語でつなげたりして、分かりやすい文章で書く。」</p> <p>□ 文の終わりは、ていねいな言葉で書く。</p>	<p style="text-align: center;">はじめ</p> <p>□ 食材について説明する。</p> <p>□ 書きたいことの中心をおおまかに説明する。</p> <p>□ 問いかけの文を書いてよい。</p>	<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">両方の書き方の工夫</p>				
28分	<p>4 段落ごとに「中」の部分の文章を書く。</p> <p>○ 段落の並べ方を考える。</p> <p>○ 段落ごとに記述をする。</p>	<p>○ 「中」の部分を書くことを確認して、段落がどのような順序になっていたかを想起させる。</p> <p>(発) 『「中」の部分の段落の並べ方を決めましょう。』</p> <p>○ 調査カードをワークシートの上で並べ替えられるようにしておく。</p> <p>○ 並べ方を決められない児童には、食品の姿をイメージさせ、食材に近いと思うものから並べるように促す。</p> <p>(発) 「段落の順序が決まったら、学習した書き方の工夫をしながら、メモを元に文章を書きましょう。書き終わったら、書き方の工夫ができているかチェックをしましょう。」</p>	<p>〈書く能力ウ〉</p> <p>○ 収集した情報を、「食品」と「加工の仕方の工夫」に整理し、自分の書きたいことの中心を決めて、両方の関係が分かるように調査報告文に記述している。</p> <p>〈言語についての知識・理解・技能(1)(7)〉</p> <p>○ 文相互及び段落相互の関係を表すための接続語の役割を理解し、自分の文章に用いている。</p> <p style="text-align: right;">【調査報告文】</p>				

5分	<p>5 本時のまとめをする。</p> <p>○ 報告文を書いた感想をワークシートに書く。</p>	<p>○記述に困ったときには、教材文や教科書例文を見直すことを確認し、自分で書き進めていけるようにする。</p> <p>○なかなか書き始められない児童には、「まず□□です。」「次に△△です。」という段落の最初の一文を先に書くように促す。</p> <p>○机間指導の際に、「報告文の書き方の工夫」のチェック表を準備しておき、それを見せながら、どこを工夫したらよいか児童とともに確認できるようにする。</p> <p>○メモの内容の羅列になっている児童には、一文にできる内容や、接続語が必要な内容を指摘し、教室のヒント掲示を見に行くように促す。</p> <p>○書き終わった児童には、チェック表を渡し、工夫が取り入れられているか、修正する箇所はないかを自分で見直せるようにする。</p> <p>○本時の学習を通して、自分ができるようになったと思うことを書くようにさせる。</p>	
----	---	--	--

〈参考文献〉

- ・「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】」
(平成 23 年 11 月 国立教育政策研究所)
- ・「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力，判断力，表現力等の育成に向けて～【小学校版】」
(平成 22 年 12 月 文部科学省)